



はちなり

令和8年度7月号 杉並区立八成小学校

1学期のまとめの時期です

副校長

先月の学校公開では、多くの保護者の方々にお越しいただき、ありがとうございました。

早いもので、1学期も1か月弱となりました。運動会だけでなく日々の学校生活の中で、児童の成長を保護者の方々、地域の方々、担任から聞く度に嬉しくなります。きっと、たくさんの学びがあったのでしょう。

1学期当初、職員室に来て用件だけを言う児童が多かったのですが、「〇年〇組の△△です。〇〇の鍵を借りに来ました。」と、大きな声で話す児童が増えました。4月当初の印象とは異なり、頼もしく感じます。

現在放送中の朝の連続テレビ小説「風、薫る」(明治時代の看護師大関和と鈴木雅をモチーフにした二人を主人公としている)で、舶来物を扱う店主(モデルは清水卯三郎と言われている)が「人が何者であるかは、名前や肩書より、その立ち居振る舞い、生き方に滲み出るものですよ。」と語る場面がありました。「立ち居振る舞い」という言葉は、普段の生活の中で無意識に行っている動作や態度を指しますが、実はその一つ一つに意味や礼儀が隠れているような気がします。例えば、立ったり座ったりする時の動き一つで相手に与える印象が大きく変わることもあります。プリントやファイルの渡し方、物の置き方も然りです。そして、言葉を選んで話すことで、優しさや思いやりを感じることがあります。学校や家庭での普段の所作や言動が、知らず知らずのうちに自分の印象を作っているのではないのでしょうか。だからこそ、「立ち居振る舞い」を意識するだけで、人とのコミュニケーションがずっとスムーズになるかもしれません。

本校では、久良木主任教諭が中心となって「主体的に学び合う児童の育成～自己効力感の向上を目指して～」を研究主題として研究しています。主体的に学び合うためには、人とのコミュニケーションが不可欠です。先月実施した3年生の分科会研究授業では、児童がICTを活用しながら、各々が選択した学習手段で他者と関わりながら学びを深めようとする姿が見られました。

もうすぐ夏休みを迎えます。普段会うことができない方に会ったり、夏休みだからこそできる体験をしたりすることでしょう。ご家庭でもお子さんとよりよいコミュニケーション力を身に付けるにはどうしたらよいかを話し合ってください、保護者の方がモデルとなって教えていただけたらと思います。

教育相談(はちなり)より

はちなり教室 特別支援コーディネーター

お子さんの学習面や生活面で困りごとや心配なことがありましたら、遠慮なくご相談ください。相談は、担任、教育相談・特別支援コーディネーター、スクールカウンセラーのいずれでも構いません。必要に応じて校内で連携を取りながら校内委員会で具体的な対応を検討してまいります。また、校内には特別支援教室も併設しておりますので、より具体的な支援についてご相談したい場合は、担任を通じてはちなり教室の教員までご連絡ください。